

今秋、国際交流基金(ジャパンファウンデーション)が海外で主催する美術展覧会のご案内

日頃より国際交流基金(ジャパンファウンデーション)の美術事業には格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、当基金では、海外に向けて日本の現代美術を発信する事業の一環として、今秋、アジアと欧州の4都市で展覧会を開催いたします。

つきましては、各展覧会の詳細を記載したプレスリリースを同封いたしますので、周知広報にご協力いただきますようお願いいたします。

また、取材の際には、各展覧会の担当者までご連絡下さいますようお願いいたします。

アジア 日メコン交流年2009 関連事業

Mekong – Japan Exchange Year 2009 |

1 | タイ | バンコク

Thai | Bangkok |

TWIST and SHOUT Contemporary Art From Japan

会期 | 2009年11月20日(金) 2010年1月10日(日) 会場 | バンコク芸術文化センター

2 | ベトナム | ハノイ

Vietnam | Hanoi |

Flickers New Media Art from Japan

会期 | 2009年10月23日(金) 11月1日(月) 会場 | ゲーテ・インスティテュート・ハノイ

欧州

1 | フランス | パリ

France | Paris |

たびだち
出発 6人のアーティストによる旅

Voyages Regards de photographes japonais sur le monde

会期 | 2009年10月14日(水) 2010年1月23日(土) 会場 | パリ日本文化会館

2 | ドイツ | ドレスデン

Germany | Dresden |

Kami 静と動 | 現代日本の美術

Kami. Silence-Action | Japanese Contemporary Art on Paper

会期 | 2009年10月15日(木) 2010年1月4日(月) 会場 | ザクセン州立美術館銅版画館

[お問い合わせ先]

国際交流基金 文化事業部造形美術チーム

160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1 Tel: 03-5369-6062 Fax: 03-5369-6038

| タイ・ベトナム | 古市保子 ▶ Yasuko_Furuichi@jpf.go.jp 鈴木真理恵 ▶ Marie_Suzuki@jpf.go.jp

| フランス | 牧瀬浩一 ▶ Koichi_Makise@jpf.go.jp

| ドイツ | 金子美環 ▶ Miwa_Kaneko@jpf.go.jp

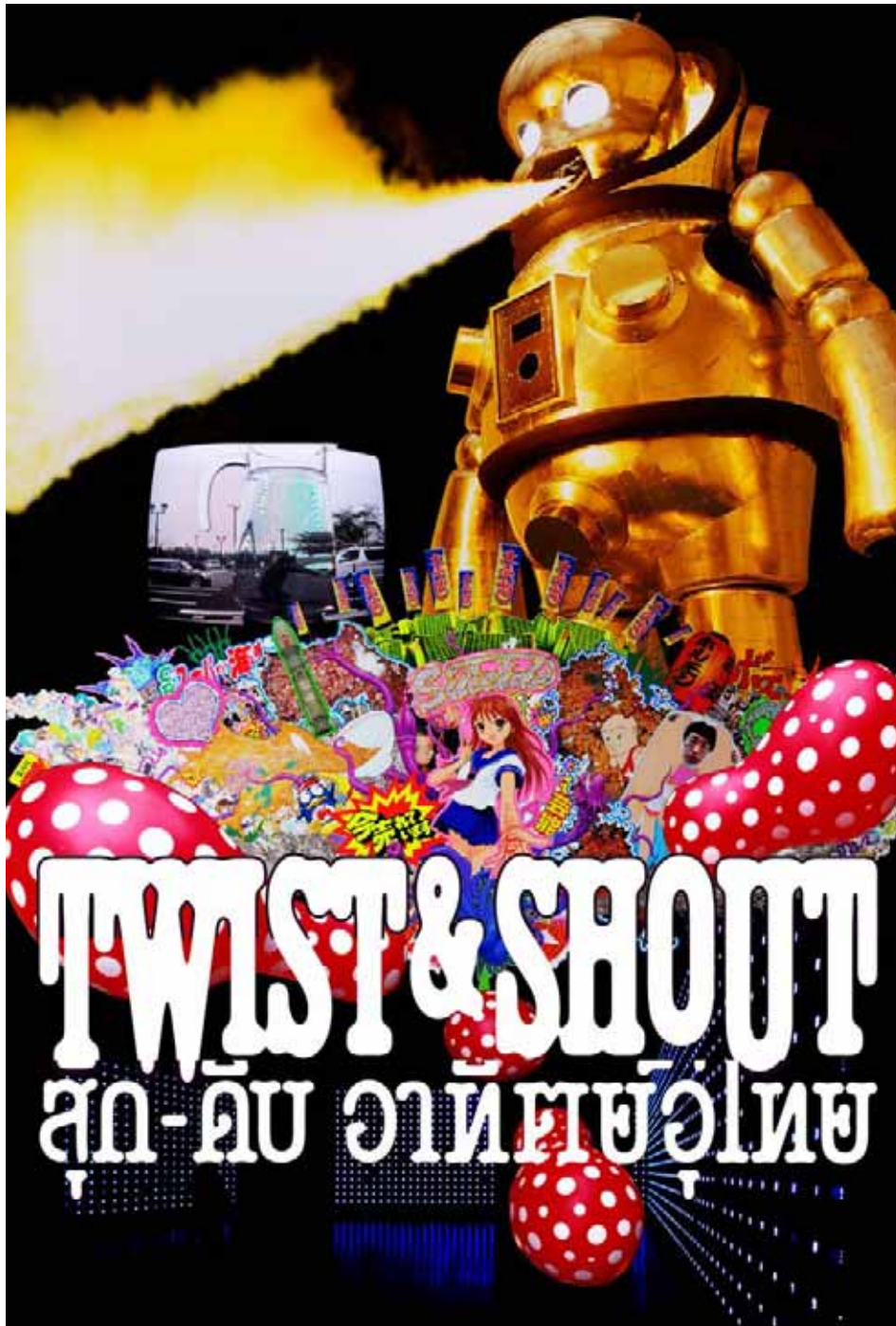


バンコク | タイ

日メコン交流年2009関連事業 | 1

TWIST and SHOUT

Contemporary Art from Japan



出品作家 | 17名

会田誠
雨宮庸介
青木陵子
青山悟
千葉正也
遠藤一郎
泉太郎
金氏徹平
草間彌生
宮島達男
西野達
のびアニキ
小谷元彦
志賀理江子
高嶺格 + ComPeung
山本桂輔
ヤノベケンジ

[お問い合わせ先]

ジャパンファウンデーション
文化事業部造形美術チーム
担当 | 古市保子 / 鈴木真理恵
Yasuko_Furuichi@jpf.go.jp
Marie_Suzuki@jpf.go.jp
Tel: 03-5369-6062
Fax: 03-5369-6038
URL: www.jpf.go.jp/j/culture/new/0908/08-03.html

[展覧会概要]

会期

2009年11月20日(金) 2010年1月10日(日)

▶オープニング 11月19日(木) 18:30 20:30

主催

ジャパンファウンデーション、バンコク芸術文化センター
協力

ジム・トンプソン・アートセンター、在タイ日本国大使館

会場

バンコク芸術文化センター(BACC)

Bangkok Art and Culture Centre

939 Rama I Road, Wangmai, Patumwan,

Bangkok10330, Thailand



TWIST and SHOUT Contemporary Art From Japan

[企画趣旨]

『Twist and Shout』は、世界を席捲した初めてのポップカルチャーとも言えるロックバンド、ビートルズによる1963年に出されたファースト・アルバム『プリーズ・プリーズ・ミー』の14曲目に収録されている楽曲です。この曲でのTWISTは「ツイスト」と呼ばれるダンスを指し、SHOUTは踊りながら叫ぶことを意味しています。しかしこの曲が世に出てから半世紀近く経った現在、このタイトルを「捻れと叫び」として再解釈することにより、現代日本人の多くが持つ「捻れた」心情や世界観、そしてそこから生み出される様々な表現という「叫び」にオーバーラップさせることが可能となります。

本展は、ポップで親しみやすい表現を備えつつ、このような現代日本社会の文化状況と真摯に向き合おうとしている日本の現代美術作家17名を、絵画、彫刻、映像、写真、インスタレーションなどによって紹介しようとするものです。現地の調査に基づく作品やタイ人アーティストの協力を得て制作する作品など、タイとの交流から生まれる新作も発表する予定です。

近年の情報のグローバル化は、アジアの若者文化の共通化をもたらし、日本とタイの視覚文化との異質性も見えにくくなっています。会場となるバンコク芸術文化センター(通称:BACC)は、大勢の人が行き交う賑やかな文化と商業の中心地サイアム・スクエアに立地しています。日本のポピュラーカルチャーが人気を博しているタイの大都市バンコクで、現在の日本の現代美術がどのように受け入れられていくのか楽しみなどところです。

本展は、国際交流基金が「Rapt!」(2006年、オーストラリア)「美麗新世界」展(2007年、中国)「消失点」(2007年、インド)「KITA!!」(2008年、インドネシア)と、日本の現代美術をアジアへ継続して発信しているシリーズの一環で、日メコン交流年2009関連事業として実施されます。

キュレーター

窪田研二(インディペンデント・キュレーター)
能勢陽子(豊田市美術館学芸員)

共同キュレーター

ピッチャヤー・スパワニット(バンコク芸術文化センター、キュレーター)
ベンワディ・ノツパケート・マーン(ジム・トンブソン・アートセンター、エキシビション・コーディネーター)

[関連プログラム]

オープニング・パフォーマンス

日時 | 2009年11月19日(木)
会場 | バンコク芸術文化センター
内容

- ▶ 遠藤一郎氏によるパフォーマンス「未来へ」
- ▶ ヤノベケンジ氏のジャイアント・トラヤンの入魂式

ラウンドテーブルトーク

日時 | 2009年11月20日(金) 15:00 - 18:00
会場 | バンコク芸術文化センター オーデトリウム
内容 | 日本とタイの美術作家同士による制作環境と意識に関する意見交換と議論
参加者 | 日本人出品作家、タイ人作家、キュレーター等

日時 | 2010年1月9日(土)

会場 | バンコク芸術文化センター オーデトリウム
内容 | 日本とタイの美術教育と社会意識についての意見交換
出席 | 宮島達男、タイ人学生

バンコク芸術文化センター

Bangkok Art and Culture Centre
www.bacc.or.th

バンコク都が建設し、財団が運営する11階建て建物に展示スペース(7-9階、各1,000㎡) 講堂、多目的スペース、スタジオ、会議室、図書室等の文化施設のほか商業施設を併設した複合施設。2009年8月に正式オープンしたばかりで、現代芸術の中心的文化施設として機能することが期待されていますが、本展はその8階で実施されます。BTS スカイトレイン ナショナル・スタジアム駅直結、サイアム・スクエアに面しています。



TWIST and SHOUT Contemporary Art From Japan

[出品作家 | 作品(参考作品含む)]

chapter 1 | **Twisted World / Twisted Mind** | 捻れた世界 / 精神



草間彌生
《Dots Obsession》(1999年)ドニービエンナーレ2000展示風景
撮影: Yayoi Kusama Studio Inc.



ヤノベケンジ
《ジャイアントトラヤン》(2005年)
撮影: 豊永政史



千葉正也
《犬のように歩き回った偉大な男》(2009年)
個人蔵 撮影: 万代洋輔 Courtesy: ShugoArts



小谷元彦
《ロンパース》(2003年)音楽: Pirami
Courtesy: 山本現代



金氏徹平
《Teenage Fan Club #24》(2009年)
Alkoven Collection



会田誠
《Monument for Nothing III》(2009年)
Courtesy: ミゾアートギャラリー



山本桂輔
《Untitled》(2008-09年)
撮影: 小野正志 Courtesy: 小山登美夫ギャラリー

TWIST and SHOUT Contemporary Art From Japan

[出品作家 | 作品(参考作品含む)]

chapter 2 | Recapture of the World | 世界の再構成



青木陵子
《しだれ柳》(2005年)



泉太郎
《Finland》(2007年)



西野達
《Life's Little Worries in Yokohama》(2009年)



のびアキ
《テレビばかり見ていてバカになった》(2009年)

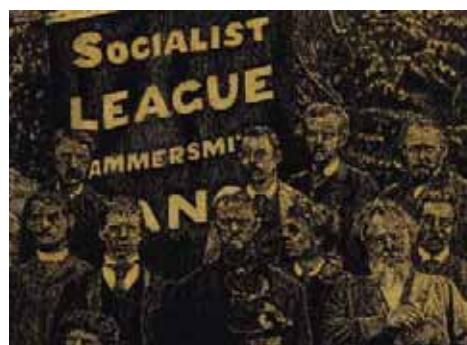


雨宮庸介
《ムチウチニューロン》(2008年)
撮影: 安齊重男

chapter 3 | Shout it Loud or Low | 密やかな / 声高な叫び



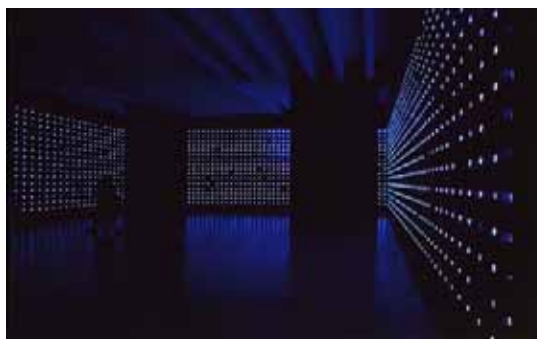
志賀理江子
《Blind date — don't smile, just look at me.》(2009年)



青山悟
《Glitter Pieces #1》(2008年)
個人蔵 撮影: 宮島健 Courtesy: ミゾマアートギャラリー



達藤一郎
《未来へ!号》(2008年)



宮島達男
《MEGA DEATH》(1999年)
撮影: 安齊重男 Courtesy: The Japan Foundation, SCAI THE BATHHOUSE



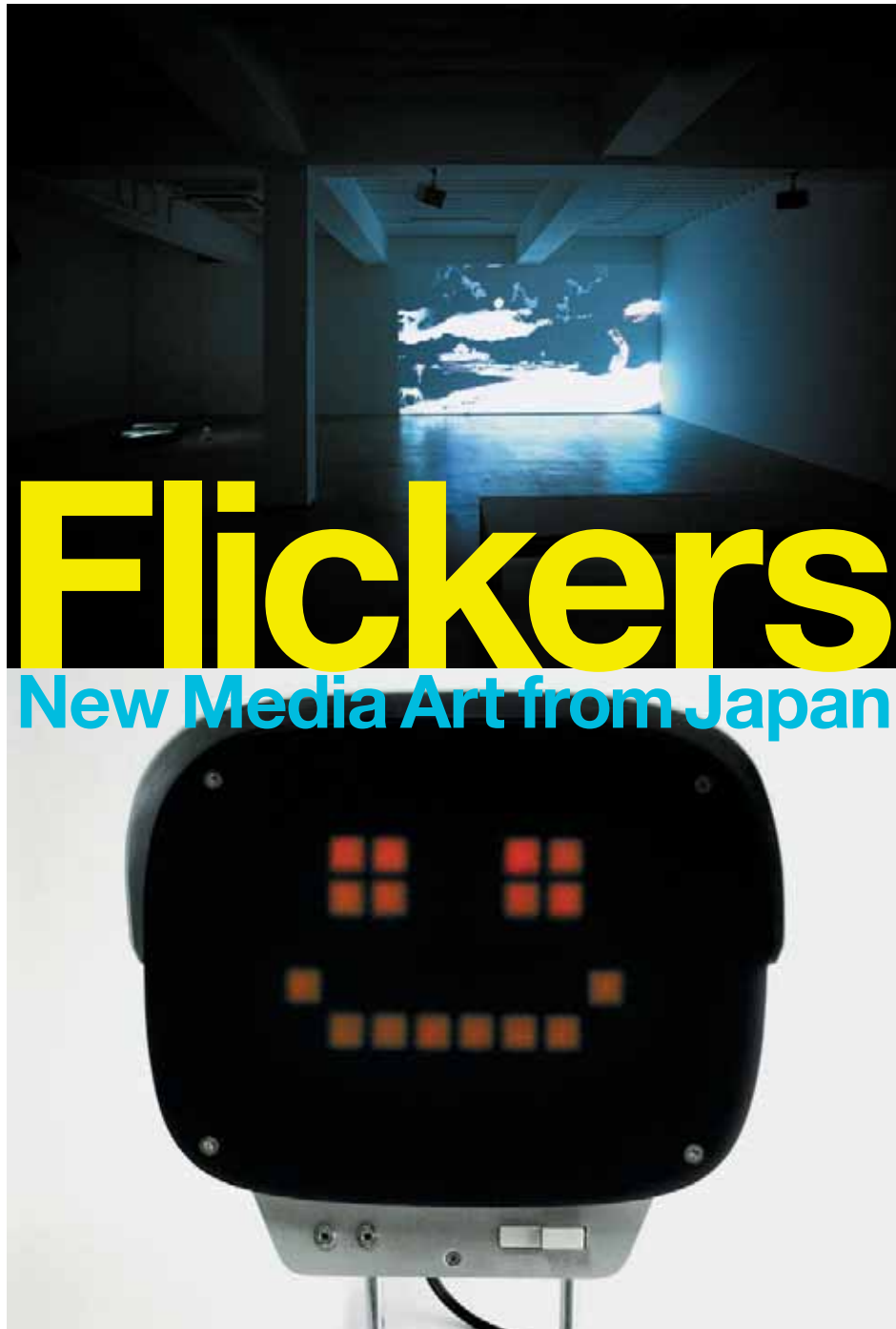
高嶺格 + ComPeung
ComPeungの風景写真

ベトナム | ハノイ

日メコン交流年2009関連事業 | 2

Flickers

New Media Art from Japan



出品作家

南隆雄

クワクポリョウタ

Flickers

New Media Art from Japan

[お問い合わせ先]

ジャパンファウンデーション
文化事業部造形美術チーム
担当 | 古市保子
Yasuko_Furuichi@jpf.go.jp
Tel: 03-5369-6062
Fax: 03-5369-6038
URL: www.jpf.go.jp/j/culture/new/0908/08-04.html

[展覧会概要]

会期

2009年10月23日(金) 11月1日(月)

主催

ジャパンファウンデーション

会場

ゲーテ・インスティテュート・ハノイ

Goethe-Institut Hanoi | 56-58 Nguyen Thai Hoc St., Dong Da Dist., HN

上: 南隆雄
《FAT SHADES X 2008年》
オオタファインアーツ「南隆雄」展 展示風景 ©南隆雄
下: クワクポリョウタ
《Vomoder X 2000年》



Flickers New Media Art from Japan

[企画趣旨]

写真や映像、とりわけ高度なコンピューター処理を用いた画像を含むインスタレーションは、いまや現代美術に欠かせない表現手段です。ベトナムの作家たちも、伝統的な絵画、彫刻のみならず、デジタルカメラやビデオ、コンピューターを用いた作品制作のために試行錯誤を行っており、ニューメディアに対する大きな関心が伺えます。

そこで本展では、近年国内外で活躍している若手作家、南隆雄（1976年大阪生まれ）の作品を紹介致します。映像とサウンドを用いたインスタレーションを制作する南は、昨年ベトナムやカンボジア等のメコン地域を訪れ、様々な風景を撮影しました。その映像を素材に制作した代表作《Fat Shades》（2008年）を展示するほか、新作インスタレーションも発表します。

また本展にあわせて、エレクトロニクスを用いたデバイス作品を生み出し続けるメディア・アーティスト、クワクポリョウタ（1972年東京生まれ）のワークショップ「信号化された光」も学生向けに実施します。

本事業は、これまでベトナムで紹介されることがなかった日本の最新のメディアアートを、新進の若手作家の展覧会とワークショップによって初めて紹介する試みであり、日メコン交流年2009関連事業として実施されます。

キュレーター

橋本梓（国立国際美術館研究員）

ゲーテ・インスティテュート・ハノイ

Goethe-Institut Hanoi

www.goethe.de/ins/vn/hanoi/index.htm

[関連プログラム]

ラウンドテーブルトーク

日時 | 2009年10月23日（金）14:30 – 16:30

会場 | ベトナム国立美術博物館

参加者 | 南隆雄（メディア・アーティスト）、橋本梓、チャン・ルオン（美術家、キュレーター）

レクチャー | メディアアートの可能性について話そう 日本の状況を中心に

日時 | 2009年10月24日（土）17:00 – 19:00

会場 | ベトナム国立美術博物館

講師 | 原久子（大阪電気通信大学教授）、クワクポリョウタ（メディア・アーティスト）

ワークショップ | 信号化された光 メディアアートにつながる電子工作ワークショップ

日時 | 2009年10月25日（日）14:00 – 17:00

会場 | ベトナム国立美術博物館

講師 | クワクポリョウタ

ワークショップ 企画趣旨 | クワクポリョウタ

私たちが慣れ親しんでいる2つの映像メディア、映画とテレビジョンは映像の捉え方・再現方法に大きな違いがあります。

映画が基本的に写真＝二次元空間の時間的連続体なのに対し、テレビジョンは1つの明滅する光線の、時間に沿って動き回る軌跡です。テレビジョンの技術は放送を前提としていますから、映像を電波など何らかの信号に乗せられる形式の情報に変換する必要があります。それらの信号媒体は時間軸にしか空間を持ちません。そのために投影像をスライスして、一つの強度の時間的な変化に変える必要があるのです。逆に再生する際には受信した信号をひとつの光の強度に変換し、もとは真逆のやり方と並べ直して映像を得ます。

この原理は1883年、ポール・ニプコーによる「ニプコー円板」発明によって確立されました。その後、より素早く高精細な変換が行える電子的な素子「アイコノスコープ」によってテレビジョンは普及しました。私たちが映像で遊ぶとき、それらの多くは映画のまねごとです。驚き板やパラパラマンガなど映画と原理を同じくする遊びや遊具はたくさん作られてきました。それに対し、テレビジョンの原理的なまねごとというのはあまり聞いた事がありません。確かに技術的には若干複雑

なものなので、気軽に体験できる遊びが生まれなかったのかも知れません。

それにしても、すべての、あらゆる映像がたったひとつの光源で再現されるというこの原理は自分にはとても魅惑的なものに思えます。それはホルヘ・ルイス・ボルヘスの短編「エル・アレフ」の中に描かれた、とある地下室に存在するという小さな光の球を思い起こさせます。ボルヘスの光の球は、そこに宇宙のすべてが見渡せる究極的な空間の凝縮として描かれています。ニプコーの光源はそれとは全く逆に空間をもちませんが、その明滅はあらゆるものを包含しようという点に於いて同じく究極的なものと思えるのです。

このワークショップではたった一つの光源によるテレビジョン＝動画のブロードキャストを試みたいとおもいます。信号化された光が部屋じゅうを満たしているとき、私たちはそれを定められたルールでデコードすることで、映像を受け取ることができるでしょう。

映写機やビデオ・プロジェクターが放つ光はすでに図像を含んでいるため適切な角度と距離に投影する必要がありますが、われわれのテレビにはそれがありません。光の届かざり、どこにでもいくつでも映像を取り出す事ができるのです。それゆえこれは上映ではなく放送といったほうがむしろいい体験になるはずです。

1997年設立の半官半民の非営利組織。ドイツ政府外務省より一部補助金を受けて運営。ドイツ語教育、舞台公演、美術展、講演会などを継続して実施。併設の展示スペースでは、ドイツ人作家、ベトナム人作家の作品を紹介していますが、今回初めて日本人作家の展覧会を実施することになります。



フランス | パリ

たびだち

出発 6人のアーティストによる旅**Voyages** Regards de photographes japonais sur le monde

百々武
《礼文島 北海道》(2003年)

[企画趣旨]

今秋、これからの活躍が期待される日本人の写真家、映像作家6名による「旅」をテーマとした作品170点をパリ日本文化会館にて紹介します。

忘れられた日本を訪れる旅、太平洋の海流の中の離島にたどり着く旅、遠く離れた異国の地で現地の人と実際に生活しながら体験していく旅、ユーラシア大陸の果ての国で巡り合った旅、未踏の地に足を踏み入れてゆく旅、そして夢の中のような、架空の旅。グローバルな時代に生きる日本の作家たちの視線は自分の内と外へと向き、日本人である前に、旅人として、普遍的な視点を提示します。

パリ日本文化会館では、1997年の開館以来、日本文化を紹介する欧州の拠点として、国宝や重要文化財を含む展示から、現代美術の作家や日本と欧州の関係性を検証するテーマの展覧会など多彩な展覧会事業を手がけてきました。今回は、フランスでも日本でも、文化的にも、歴史的にもいつも近い存在であった「旅」という行為を現代の作家によって再定義し、大きな物語の交換ではなく、個人的な経験を観客の一人ひとりと交換可能にすることにより、「旅」への欲求や「旅」に対する新しい認識の共有を図ります。

本展は2010年以降、ポルトガルやメキシコなどに巡回予定です。また、本展の出品作品は、2009年12月19日(土)から2010年2月7日(日)まで東京都写真美術館で開催される、日本の新進作家展「出発 6人のアーティストによる旅」にも展示されます。

[展覧会概要]

会期

2009年10月14日(水) 2010年1月23日(土)

会場

パリ日本文化会館

Maison de la culture du Japon – Paris (MCJP)

101 bis, Quai Branly, 75015 Paris, France

主催

ジャパンファウンデーション、パリ日本文化会館

パリ日本文化会館支援協会

共催

東京都写真美術館

協賛

パリ日本文化会館・日本友の会

協力

エプソン

広報提携

LA TRIBUNE

[お問い合わせ先]

ジャパンファウンデーション

文化事業部造形美術チーム

担当 | 牧瀬浩一

Koichi_Makise@jpf.go.jp

Tel: 03-5369-6062

Fax: 03-5369-6038

URL: www.jpf.go.jp/j/culture/exhibit/oversea/[tabii/index.html](http://www.jpf.go.jp/j/culture/exhibit/oversea/tabii/index.html)**出品作家 | 6名**

尾仲浩二、百瀬俊哉、石川直樹、さわひらき、百々武、内藤さゆり

キュレーター

藤村里美(東京都写真美術館)

Voyages Regards de photographes japonais sur le monde

[関連プログラム]

レクチャー | 日本の旅写真の系譜

日時 | 10月15日(木) 第1回目 15:00 第2回目 18:30
会場 | パリ日本文化会館 5階 レセプションホール
講師 | 藤村里美(東京都写真美術館)

シンポジウム | 日本写真史 1900-1945年

第1回目「被写体について」12月4日(金)14:00 18:30
第2回目「批評について」12月5日(土)14:30 18:00
会場 | パリ日本文化会館地上階小ホール
パネリスト | アンヌ・バイヤール・坂井(フランス国立東洋言語文化大学教授) ティム・クラーク(大英博物館主任学芸員) サンドリーヌ・ダルバン・タバル(フランス国立東

洋言語文化大学教育研究担当官) クロード・エステーブ(社会科学高等研究所現代映像史研究室研究員・写真家) 金子隆一(東京都写真美術館) ミカエル・リュッケン(フランス国立東洋言語文化大学教授) グザビエ・マルテル(ピエール写真美術館ドキュメンタリスト) 五十殿利治(筑波大学教授) 佐藤守弘(京都精華大学准教授)

講演会 | 日本におけるカメラ機材の歴史と進化

日時 | 2010年1月13日(水)
会場 | パリ日本文化会館 地上階 小ホール
講師 | 後藤哲朗(株式会社ニコン 映像カンパニー 後藤研究室長/ニコン・フェロー)

パリ日本文化会館

仏語
www.mcjp.fr/
日本語
www.jpff.go.jp/mcjp/

1988年より「日仏協力・官民合同のプロジェクト」という基本理念のもと設立準備が進められ、フランスおよび欧州における日本文化の発信基地として、21世紀の新しい日欧関係の構築、また日欧の文化・社会・経済など幅広い分野での緊密な交流に資することを目的として、1997年5月にパリ15区、エッフェル塔近くのセーヌ河畔に開館しました。地上6階・地下5階の建物は、日本が海外に有する文化交流施設としては最大級のものであり、展示ホールでの大規模展示や大・小ホールでの公演・映画・シンポジウム等のほか、図書館事業を中心とする各種事業が実施されています。

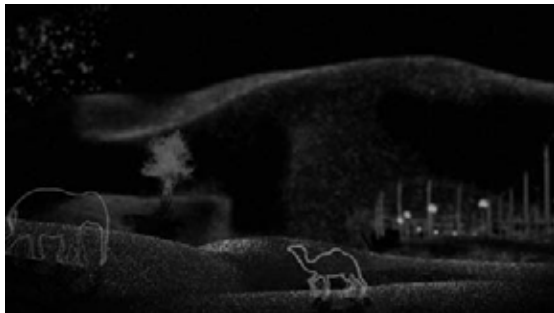
[出品作家 | 作品(参考作品含む)]



尾仲浩二
《山梨県富士吉田》(2009年)



百瀬俊哉
《デリー》(2006年)



さわひらき
《HIDDEN TREE》(2007年)
Courtesy: オオタフインアーツ(東京) / James Cohan Gallery(NY)



内藤さゆり
《「4月25日橋」》(2007年)



百々武
《利尻島 北海道》(2003年)

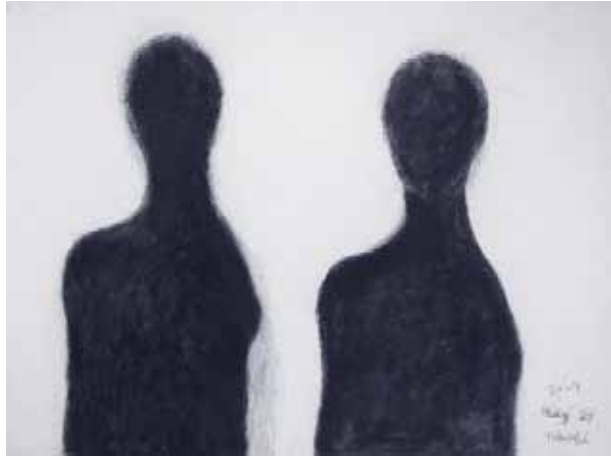


石川直樹
《Mt. Fuji》(2008年)
Courtesy: SCAI THE BATHHOUSE

ドイツ | ドレスデン

Kami 静と動 | 現代日本の美術

Kami. Silence-Action | Japanese Contemporary Art on Paper



舟越直木
《姉妹》(2009年)
撮影:大谷一郎

[企画趣旨]

ドイツ・ドレスデンのザクセン州立美術館では、かねてより日本美術の調査、収集を推進しており、国際交流基金(ジャパンファウンデーション)では、海外文化機関とのネットワーク構築や専門家間の情報交流の一環として、その研究活動に賛同・協力してまいりました。このたび、その成果として、日独2名のキュレーターのコラボレーションによる「Kami: 静と動 現代日本の美術(“Kami. Silence-Action Japanese Contemporary Art on Paper”)」展をザクセン州立美術館銅版画館との共催により開催する運びとなりました。

タイトルにある「Kami」は、偶然にも日本語では「神」と同音であり、古くから日本人が親しんできた「紙」を素材とする作品には、日本美術の伝統的技法と現代作家のみずみずしい感性が交差しています。そこには単なる紙の素材感ではなく、和紙のようにしなやかで、たくましい作家たちの個性的な魅力が浮かび上がってくることでしょう。

本展では、13名の日本人作家によるドローイングおよび版画作品を中心に紹介する本展の開催にあたって、欧州における日本美術の新たな解釈を促し、関係性のさらなる深化が期待されます。

[展覧会概要]

会期

2009年10月15日(木) 2010年1月4日(月)

会場

ザクセン州立美術館銅版画館
Staatliche Kunstsammlungen Dresden,
Kupferstich-Kabinett
Residenzschloss, Taschenberg 2,
01067 Dresden Germany

主催

ザクセン州立美術館銅版画館、
ジャパンファウンデーション

協力

東京国立近代美術館、日本航空

後援

在ドイツ日本大使館

出品作家 | 13名

富谷悦子、舟越直木、古橋佳子、エミコ・サワラギ・ギルバート、日高理恵子、池田学、鴻池朋子、三瀬夏之介、森北伸、村上友晴、太田三郎、白木ゆり、山口啓介

キュレーター

ペトラ・クールマン-ホディック(ザクセン州立美術館銅版画館)
中林和雄(東京国立近代美術館)

[関連プログラム]

アーティストによるワークショップ

10月11日(日)14:00 18:00 三瀬夏之介 | 10月15日(木)17:00 19:00 古橋佳子 | 10月16日(金)11:00 13:00 森北伸

キュレータートーク

日時 | 10月15日(木)19:00 中林和雄 | 11月12日(木)16:30 ペトラ・クールマン-ホディック

[お問い合わせ先]

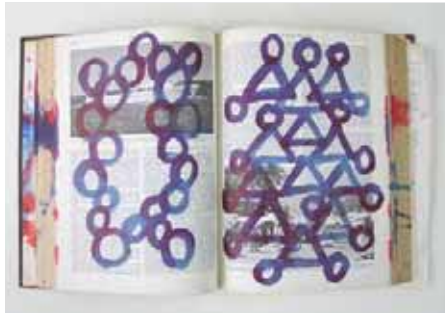
ジャパンファウンデーション
文化事業部造形美術チーム
担当 | 金子美環
Miwa_Kaneko@jpf.go.jp
Tel: 03-5369-6062
Fax: 03-5369-6038
URL: www.jpf.go.jp/j/culture/new/0909/09-02.html

Kami. Silence-Action | Japanese Contemporary Art on Paper

[出品作家 | 作品(参考作品含む)]

ザクセン州立美術館銅版画館
www.skd-dresden.de

ドイツ東部の古都ドレスデンに位置するザクセン州立美術館は、ザクセン王珠玉のコレクションを持つ歴史ある美術館です。本会場となる銅版画館はすでに1720年に独立し、14世紀から21世紀までの素描、銅版画、挿絵本など、50万点以上を所蔵しています。デュラー、レンブラントからロートレックまで数多くの貴重な作品が含まれ、その中には日本の浮世絵から近現代美術のドローイング等も含まれています。また、同館の資料は調査・研究のために広く一般に公開されているのも特色の一つです。本展出品作品の一部は、同館の収蔵品より構成されています。



舟越直木
《ひまな時間に描いた絵》(2002年-)
撮影:大谷一郎



古橋佳子
《水に溶けた虹I-II》(2007年)
撮影:末正真礼生



富谷悦子
《Untitled》(2006年)
Courtesy: 山本現代



エミコ・サワラギ・ギルバート
《椅子》(1992年)



日高理恵子
《樹の空間から-d》(2001年)



池田学
《方舟》(2005年)
©池田学



鴻池朋子
《mimio-Odyssey》(2005年)
©鴻池朋子 Courtesy: ミゾアートギャラリー



三瀬夏之介
《日本の絵》(2005年)
撮影:四方邦照 ©三瀬夏之介 Courtesy: イムラアートギャラリー



森北伸
《Untitled 4》(2002年)



村上友晴
《monos》(1989-92年)
©横田茂ギャラリー



太田三郎
《Seed Project》(2002年)
撮影:Herbert Boswank
©ザクセン州立美術館銅版画館



白木ゆり
《Sound-28》(2000年)
撮影:大谷一郎



山口啓介
《DU Child》(2007年)
撮影:菅谷守良